10/2 ヨハネによる福音書第12章　　　　　　　　 担当 福島

*＊12章までのStory（前回までのあらすじ）*

*マリア・マルタ姉妹の兄弟であるラザロが没した。イエスは洞穴の中のラザロを復活させた。ラザロは見事に復活した。この奇跡行為によって多くのユダヤ人はイエスを信じたが、その一方で祭司長/パリサイ派に目をつけられ、イエスは指名手配されるようになった。*

【1-11】ベタニアで香油を注がれる

<語句解説>

**ベタニア**・・エルサレム近郊の地名で、マリア・マルタ・ラザロ兄弟の住んでいた土地

**ナルドの香油１リトラ**・・インド原産のオミナエシ科植物ナルドスタキス・ジャタマンシーという植物の根から抽出した香料をオリーブ油でのばしたもの。ナルドの香油1リトラは労働者1年分の賃金に相当するほど非常に高価なものであったらしい。

*Q.7-8節でイエスは何を意図しているのか？*

・存在としてのイエスはいなくなってしまう。香油をイエスに塗ることができるのは今だけだ。

・【ヨハネ19：40】ユダヤの葬式では、香料を塗った亜麻布を遺体に巻く。

・貧しい人に施すのも、イエスに尽くすのも両方大事だ。

【12-19】エルサレムに迎えられる

<語句解説>

**ホサナ**・・ヘブライ語で、救い給え、の意。「ホザンナ」「ホザナ」とも。

神を賛える言葉として、典礼の中で歌われる。

*参照*：詩篇118 ; 25-26

 ゼカリア書 9 ; 9

【20-36】ギリシア人、イエスに会いに来る

●25節、自分の命を憎むと永遠のいのちが得られるとはどういうことか？

・キリストが死ぬことによって救われる

・【ルカ14：27】⇒自分の罪を認めないといけない。

●キリストは「自分を愛すように」言っているのではないのか？

・「愛する」の比較級の問題。最大の愛は父母兄弟。

●34節：人の事は誰？とわざわざ聞くのはなぜ？

・あおり

・律法に書いてある「人の子」とイエスは違うじゃないか！（いつまでも生きているんじゃないのか）

*Q.24-26節の意味とは？*

【37-50】イエスを信じない者たちに向けられたイエスによる言葉の裁き

<語句解説>

**イザヤ**・・旧約聖書に登場する預言者

*Q.38-40節は何が言いたいのか？*

*参照*：イザヤ書　6章

※御腕=力　と読み替えてもいい。

●40節：主は水から人の目を盲目にしたにもかかわらず「彼らが目で見ず～そしていやす事はない」は矛盾していないか。

・パリサイ人はじめ信じない人のため。

・十字架に処せられる事が全ての罪を背負うこと。それを仰ぎ見るかどうか（＝神の子が命を貼って愛を示している）が裁かれるかの基準になる。